



長野市立博物館
NAGANO CITY MUSEUM



博物館だより

Nagano City Museum

第121号

善光寺町の御祭礼と長野夏祭り —昭和35年の記録から—



昭和35年お先乗りの様子

令和4年の善光寺御開帳を記念して、長野市立博物館では特別展「御開帳 めくるめく ミルミラレル ミセル」を開催します。この展示では、都市で発展したミル／ミラレル／ミセル関係性から成り立つ文化について、善光寺や周辺の町とのかかわりから紹介しています。見世物、祭礼、博覧会の3つに焦点をあてた展示です。今回の博物館だよりでは、その中でも、特に昭和35年頃の善光寺周辺での祭礼について、博物館に寄贈された資料を紹介しながら見ていきたいと思います。

御開帳と祭礼の屋台行列

善光寺町では、江戸時代から祇園祭が行われてきました。現在はながの祇園祭と呼ばれているようになっていますが、かつては善光寺祇園祭、弥栄神社祇園祭という名称でした。町の人々からは長年、御祭礼と呼ばれて親しまれてきました。御祭礼では、天王おろしと天王あげの神事の間に、俄物・屋台行列が行われます。俄物とは、その時の時節にあわせた造り物のことで、現在は見ることはありませんが、かつては祭礼行列に多く出ていました。屋台は現在のながの祇園祭で出されている練り物です。屋台行列は、祭礼を盛り上げ、見る人を楽しませる役割を担ってきたため、時には御開帳を記念して祇園祭の時以外にも出されたこともありました。平成初期頃からは、度々、御開帳にあわせて屋台行列が出されてきました。令和4年にも、御開帳にあわせてながの祇園祭の屋台行列を行う予定となっています。

俄物・屋台行列は、善光寺町の御祭礼のみならず、場を変えて行われてきたものといえます。現在はながの祇園祭という名称のとおり、善光寺町だけではなく長野市がかかわる祭礼となっていますが、御祭礼は時代によって姿を変えながら行われてきたのです。その一端を見てみましょう。

長野夏まつり

御祭礼は、戦後大きく形を変えました。それまでは、善光寺町、弥栄神社の氏子の町による祭礼でした。しかし、戦時中に行列が行われず、戦後も俄物や屋台を出す町が少なかったことから、祭礼を長野市などと協力して行うこととなり、昭和33（1958）年から

俄物や屋台行列を長野夏まつりの一環として行うこととなりました。長野商工会議所が主催で、長野市などが協賛となり、市からの補助金を利用して開催されました。この時から、善光寺町としてだけではなく、より広く、長野市がかかわる祭礼となりました。

柳澤家寄贈資料

長野夏まつりとして行われるようになった時期の御祭礼についてわかる資料が、本年度博物館に寄贈されました。昭和35（1960）年御祭礼のお先乗りにかかわる資料です。西後町で商店を営んでいた柳澤家が保管していました。

お先乗りとは、御祭礼の行列の先頭に立つ稚児で、6～7歳（稀に10歳くらいまで）の男の子が務めます。当時は年番町の中の家から出すこととなっており、家をあげてお先乗りの仕度をしていました。柳澤家は昭和35年の御祭礼に、当時10歳の長男をお先乗りに出しています（写真1）。この時に使った衣装や、関係の書類、写真、映像が寄贈されました（表1・2、写真2）。お先乗りを出すことは家にとって非常に名誉なことだったため、これらはとても大切に保管されてきたようです。披露宴の領収書など、細かいものまで残されていました。ここからは、これらの寄贈資料からわかる当時の御祭礼の姿を見てみたいと思います。



写真 1 先乗り記念写真



写真 2 寄贈された衣装

表 1 資料一覧

番号	名称	員数
2021A00003-1	狩衣	1 枚
2021A00003-2	長襦袢	1 枚
2021A00003-3	袴	1 枚
2021A00003-4	さらし	1 枚
2021A00003-5	たとう紙	2 枚
2021A00003-6	烏帽子	1 点
2021A00003-7	中啓	1 本

番号	名称	員数
2021A00003-8	子ども用草履	一組 (2 足)
2021A00003-9	親用草履	一組 (2 足)
2021A00003-10	親用バッジ	1 点
2021A00003-11 ※	アルバム・写真	一括
2021A00003-12 ※	8 mフィルム	1 点
2021A00003-13 ※	書類	一括

※ 2021A00003-11 ～ 13 の詳細が表 2

表 2 写真・文書目録

2021A 00003-	番号	名称	発行	宛所	年月日	員数	備考
11	1	アルバム 昭和 35 年お先乗り記録				1 冊	(お先乗り役の子どもの母がまとめたアルバム)
11	2	ボジフィルム(マウント) 昭和35年お先乗り記録				5 点	
11	3	写真 昭和 35 年 お先乗り記念	青木写真館			4 枚	青木写真館撮影記念写真 3～1祭礼関係者集合写真 3～2家族写真 3～3お先乗り記念写真 3～4お先乗り記念写真
12		8mフィルム 昭和 35 年お先乗り記録映像				1 巻	
13	1-1	領収書	菱九木材株式会社	柳沢文房具店	昭和 35 年7月 30 日	1 枚	1～5一つの袋入り1～1～1～9一綴りクリップ留め
13	1-2	請求書	菱九木材株式会社	柳沢文房具店	昭和 35 年7月 25 日	1 枚	
13	1-3	請求書	堀田金物店	柳沢文房具店	昭和 35 年7月 25 日	1 枚	
13	1-4	領収書	武田昌訓	柳沢文房具店	昭和 35 年7月 30 日	1 枚	「盛花式々」 3000 円
13	1-5	請求書	武田昌訓		昭和 35 年7月 30 日	1 枚	「盛花 2 1500」 3000 円
13	1-6	領収書	長野観光タクシー株式会社	柳沢文房具店	昭和 35 年8月 2 日	1 枚	「ハイヤー代」 1000 円
13	1-7	請求書	長野観光タクシー株式会社	西後町 柳沢文房具店	昭和 35 年7月 30 日	1 枚	7月 17 日、19 日、24 日 1000 円
13	1-8	請求書	岩井屋	柳澤	7月 21 日	1 枚	「旧暦十五本 ジュース五本 ビール十六本 500 定 (おさしみ、玉子トーフ、鮎塩焼、天ぷら、みそ汁、めし) 普十六人様」 12370 円
13	1-9	領収書	岩井屋	柳澤	昭和 35 年7月 30 日	1 枚	12370 円
13	2-1	御祝儀袋	■■■萬利助			1 枚	2～1で2～2～2～ 12 を束ねる
13	2-2	御祝儀計算表				1 枚	
13	2-3	御祝儀袋	大勲進			1 枚	「金五百圓」
13	2-4	御祝儀袋	大本願			1 枚	「金壹千圓」
13	2-5	御祝儀袋	長野市長 倉島至			1 枚	「金壹千円」
13	2-6	御祝儀袋	小坂武雄			1 枚	
13	2-7	御祝儀袋	長野青年会議所			1 枚	「金壹千円」
13	2-8	御祝儀袋	西後町			1 枚	「金壹萬圓」
13	2-9	御祝儀袋	西後町役員一同			1 枚	「金壹萬圓」
13	2-10	御祝儀袋	年番町			1 枚	「金参千円」
13	2-11	御祝儀袋	柳澤佐二郎			1 枚	「金壹万円」
13	2-12	御祝儀袋	年番町			1 枚	「金五千元」
13	3-1	領収書	酢屋履物店	柳澤	昭和 35 年6月 28 日	1 枚	3～1～37一綴りクリップ留め 1300 円
13	3-2	領収書	栗田商店	柳澤文房具店	昭和 35 年6月 29 日	1 枚	8350 円
13	3-3-1	請求書	栗田準之助	柳沢文房具店	昭和 35 年6月 25 日	1 枚	3～3～1～3三枚一綴りホチキス留め 「別紙請求書2枚」 8475 円
13	3-3-2	請求書	栗田酒店	柳沢文房具店	昭和 35 年6月 15 日	1 枚	「清酒一級 0.8L 5 @ 835」 4175 円
13	3-3-3	請求書	栗田酒店	柳沢文房具店	昭和 35 年6月 19 日	1 枚	「一級酒■入 5J」 4300 円
13	3-4	領収書	中越屋本店	柳澤文房具店	昭和 35 年7月 14 日	1 枚	「戸棚 8300 煙草セット 1350 菓子皿 10 540 茶卓 10 380 計10570 値引 570」 10000 円
13	3-5	領収書	弥栄神社崇敬会	柳沢敏夫	昭和 35 年7月 14 日	1 枚	「奉納浦安舞日本舞踊大会、他協賛費」 1000 円

2021A 00003-	番号	名称	発行	宛所	年月日	員数	備考
13	3-6	領収書(納品案内)	丸田家具株式会社	柳澤文房具店	昭和 35 年7月 17 日	1 枚	カーテン地1.4m 150円 210円 ■■■50円 ■■■7 1円 8円 仕立代 30円 カーテンロット 50円 348円
13	3-7	領収書	嶋屋商店 石沢求馬	柳沢商店	昭和 35 年7月 20 日	2 枚	「味の素詰合 10ヶ 476」 4760 円
13	3-8	領収書	井田家具店石堂洋家具部	柳沢文房具店	昭和 35 年7月 17 日	1 枚	「品代金」 3000 円
13	3-9	領収書(計算書)	宮尾硝子本店		昭和 35 年7月 15 日	1 枚	「コップ30 30 コップ6 60 コップ台6 100」 1360 円
13	3-10	請求・領収書	堀田金物店	柳澤	昭和 35 年7月 15 日	1 枚	「アルマイト■■■7L2 1,150 2300 アルマイト水約3 65 195 ハケツ■■18L5 140 700」 3195 円
13	3-11	領収書	藤嘉陶器店	上	昭和 35 年7月 15 日	1 枚	「4寸皿30 20 600 小丼10 18 180 中皿20 22 440 計1220 コップ差引6 80 480」 740 円
13	3-12	領収書	横田文雄	柳沢	昭和 35 年7月 15 日	1 枚	「煎茶碗 10 45 450 カワラケ35 10 350 神酒茶1対 70 70」 870 円
13	3-13	納品書	菱九木材株式会社	柳澤文房具店	昭和 35 年7月 21 日	1 枚	「スギ1.8×1.8 6 195」 1170 円
13	3-14	領収書	旭屋 滝川幸雄	柳沢	昭和 35 年7月 日	1 枚	「ガム百ヶ代」 900 円
13	3-15-1	領収書	左右田量工業所 左右田清裕	柳沢文房具店	昭和 35 年7月 30 日	1 枚	3-15-1〜3三枚一綴り釘留め 2400 円
13	3-15-2	請求書	左右田量工業所 左右田清裕	柳沢文房具店	昭和 35 年7月 30 日	1 枚	「縁付裏返(ハリ使用) 12 200」 2400 円
13	3-15-3	納品書	左右田量工業所 左右田清裕	柳沢文房具店	昭和 35 年7月 21 日	1 枚	「縁付裏返(ハリ使用) 12 200」 2400 円
13	3-16	領収書	島田周三商店	柳沢	昭和 35 年7月 30 日	1 枚	「殿中笠一ヶ一五〇 紅白幕損料二枚一.ハ〇〇 乱カゴ一ヶ三ハ〇」 2330 円
13	3-17	領収書	二葉堂	上	昭和 35 年7月 25 日	1 枚	「菓子折代」 400 円
13	3-18	請求書	丸本洋酒店	柳澤	昭和 35 年7月 25 日	6 枚	6月27日〜7月25日の飲食物代 42747 円
13	3-19	領収書	小林印刷研究所	柳沢文具店	昭和 35 年7月 30 日	1 枚	「のし代 70 反」 200 円
13	3-20	領収書	紀州屋商店	柳澤	昭和 35 年7月 30 日	1 枚	「座布団代共外」 15500 円
13	3-21	領収内訳	紀州屋商店	柳澤	昭和 35 年7月 30 日	1 枚	「羽二重座布団2」 「夏ぶとん1」 「夏ぶとん1」 「ブロード大形座布団5」 「夏フトンカバー上2」 「夏フトンカバー並1」 「座布団カバー大形5」 「座布団カバー大形5」 15500 円
13	3-22	領収書	株式会社をかもと	柳沢文具	7月 24 日	1 枚	「すし竹 10ヶ」 1500 円
13	3-23	領収書	高松呉服店	柳沢	昭和 35 年7月 31 日	1 枚	34920 円
13	3-24	領収内訳	高松呉服店	柳沢	昭和 35 年7月 31 日	3 枚	6月3日〜19日の衣類代 34920 円
13	3-25	請求・領収書	富貴楼	柳澤	昭和 年7月 24 日	1 枚	「ビール3本 150 ジュース 16 本 950 酒持込料 15 本 2250」 3720 円
13	3-26	領収書	萬盛庵	柳沢	昭和 35 年7月 25 日	1 枚	1300 円
13	3-27	請求書	萬盛庵	柳沢	昭和 35 年7月 25 日	1 枚	7月24日「モノソバ」 「中カソ」 「冷中カソ」 「中カソ」 「冷中カソ」 「親子丼1」 7月15日「冷中カソ」 1300 円
13	3-28	領収書	かるかやまんどう仁科分店	上	35 年8月 25 日	1 枚	「まんどう 30 5 150」 150 円
13	3-29	領収書	どりの焼	柳沢	昭和 35 年7月 25 日	1 枚	300 円
13	3-30	領収書	どりの焼本舗村田屋本家	柳沢文具	昭和 35 年7月 22 日	1 枚	365 円
13	3-31	領収書	宇都宮常用自動車商会	柳澤文具店	昭和 35 年7月 28 日	1 枚	「7/ 24 月分ハイヤー料金」 160 円
13	3-32	領収書	宇都宮常用自動車商会	柳沢	昭和 35 年7月 25 日	1 枚	「ハイヤー料金」 80 円
13	3-33	請求書	宇都宮常用自動車商会	西後町柳沢文具店	昭和 年7月 19 日	1 枚	「7月 19 日西後町山田様」 80 円
13	3-34	覚書			7月 23 日	1 枚	「たばこしんせい 10ヶ 400 屋台人足急病人浅川送りハイヤー 450」 850 円
13	3-35	領収書	長のタクシー小林			1 枚	「ハイヤー代浅川マデ」 450 円
13	3-36	領収書	栗田屋本店	柳沢文具店	昭和 35 年7月 25 日	1 枚	「ビース 10ヶ 新生 29ヶ」 1560 円
13	3-37	領収書	甘泉堂製菓店	柳沢文房具店	昭和 35 年7月 24 日	1 枚	「7.24 新生 20ヶ 40」 800 円
13	4-1	領収書	御衣衣所ホ 江村善雄	柳沢	昭和 35 年7月 14 日	1 枚	4-1〜10-綴りクリップ留め 「御立烏帽子本納房組付」 1550 円 「大極上彩糸盤金縁取鍔金紗御狩衣裏付極上本納露組付」 22000 円 「極上重目付紋羽二重紫御紋袴」 6000 円 「上等金銀御中啓」 350 円 29900 円
13	4-2	領収書	つづきや呉服店	柳澤	35 年7月 16 日	1 枚	「御紋付着物外」 5610 円
13	4-3	領収内訳	つづきや呉服店	柳沢	35 年7月 16 日	1 枚	「御紋付四ツ身1枚 表7.6m 2600 染代 750 サラン.半衿 350 仕立入用 450 4150/ 本モス白軽装帯一本 表 340 白■■■■70 仕立代 150 560/ナイロン白モス一反 600/ ムラサキ半反 300」 5610 円
13	4-4-1	領収書	株式会社ナカジマ	柳沢文具店	昭和 35 年7月 24 日	1 枚	「弁当 23 200 4000」 4600 円
13	4-4-2	領収書	株式会社ナカジマ	柳沢文具店	昭和 35 年7月 24 日	1 枚	「ビール兼酒ツミミ血料理 15 人4皿 500」 2000 円 「血料理 15 人 150」 1500 円
13	4-5	領収書	名代唐州そば 岡沢支店	柳沢文具店	7月 25 日	1 枚	「ざる 24 1200」 1100 円
13	4-6	領収書	山田楼	柳澤文具店	昭和 35 年7月 30 日	1 枚	「別紙の通り」 100104 円
13	4-7	請求書	割烹 山田楼	柳沢文房具店	昭和 35 年7月 19 日	1 枚	「二次会会費」 「御料金ソバ盛の料金 60」 「御食事寿司クリーム」 「御ビール」 「ジュース.タンサン」 「持込料」 「■■代」 「■■化料」 「税」 「タバコ」 「自動車」 100104 円
13	4-8	領収書	栗田商店	柳沢文具店	昭和 35 年7月 30 日	1 枚	5000 円
13	4-9-1	請求書	栗田商店栗田幸之助	柳沢文具店	昭和 35 年7月 23 日	1 枚	4-9-1〜7-綴りホチキス留め 「別紙請求書6枚 58350 味の素値引@ 40 2400 4950」 51000 円
13	4-9-2	請求書	栗田酒店	柳沢文具	35 年7月4日	1 枚	「味の素@ 500 60」 30000 円
13	4-9-3	請求書	栗田酒店	柳沢文具店	35 年7月 19 日	1 枚	「①白雪 20」 16500 円 「山田楼届け」
13	4-9-4	請求書	栗田酒店	西後町柳沢文具店	35 年7月 22 日	1 枚	「アグリコオレンヂ 50」 2000 円
13	4-9-5	請求書	栗田酒店	西後町柳沢文具店	35 年7月 23 日	1 枚	「② 1.8L 5」 2450 円 「店届け」
13	4-9-6	請求書	栗田酒店	柳沢	35 年7月 24 日	1 枚	「アグリコジュース 85 本」 3400 円
13	4-9-7	請求書	栗田酒店	柳沢	35 年7月 24 日	1 枚	「アグリコジュース 100 本」 4000 円
13	4-10	「御先乗披露宴芳名簿」			35 年7月 19 日	1 枚	
13	4-11	費用帳簿				1 枚	4-11,12で4-1〜10を包む
13	4-12	費用帳簿				1 枚	
13	5	請求書	小林印刷研究所	柳沢文具店	昭和 35 年7月 30 日	1 枚	「7月 4 日彌栄神社祭礼委嘱状 100 枚 350」 350 円
13	6	天王上げ宴会出席案内状	長野夏まつり御祭礼執行委員長 堀沢 英吉	柳沢敏夫	昭和 35 年7月 18 日	1 通	13- 6〜30 一つの袋入り 封筒入り
13	7	天王上げ宴会出席案内状	長野夏まつり御祭礼執行委員長 堀沢 英吉	柳沢幸一	昭和 35 年7月 18 日	1 通	封筒入り
13	8	御先乗り披露宴案内状	柳澤敏夫		昭和 35 年7月吉日	1 通	封筒入り
13	9	御先乗り披露宴御礼状兼書	柳澤敏夫		昭和 35 年7月 20 日	1 枚	
13	10	御先乗り披露宴案内状	柳澤敏夫		昭和 35 年7月吉日	1 枚	
13	11	納品・領収書	丸田家具株式会社	柳沢	昭和 35 年7月 23 日	1 枚	カーテン 540 円
13	12	御祭礼役割表	西後町区長			1 枚	
13	13	昭和三十五年度長野夏祭物しおり				1 枚	
13	14	第三回長野夏まつり次第	長野夏まつり本部			1 枚	
13	15	第3回長野夏まつり行事概要	西後町区長		昭和 35 年7月 12 日	1 枚	
13	16	覚書				1 枚	必要物品書留か
13	17	覚書				1 枚	披露宴参加者名簿か
13	18	第三回「長野夏まつり」役員名簿				1 冊	
13	19	覚書				1 枚	
13	20-1	長野夏まつり先乗俄物巡行図(案)				1 枚	20-1、2まとめられていた
13	20-2	長野夏まつり祭礼加盟町第二回総会次第			昭和 35 年6月 20 日	1 枚	
13	21	第3回長野夏まつり行事概要	西後町区長		昭和 35 年7月 12 日	1 枚	
13	22	覚書				1 冊	披露宴、御先乗り見送りの際の来賓、手伝い等
13	23	覚書				2 枚	披露宴、御祭礼当日の役割分担
13	24	覚書				1 冊	17 日〜26 日行程
13	25	覚書				1 枚	天王下し後の直会挨拶下書きか
13	26	覚書				1 枚	足揃の件
13	27	役割願状下書き	西後町区長		昭和 35 年7月 17 日	1 枚	
13	28	御先乗招待祝宴順序				1 枚	
13	29	座席表				1 枚	
13	30	披露宴役割表				1 枚	

昭和35年の御祭礼におけるお先乗り

昭和35年の俄物行列は7月24日に行われました。その時のパンフレットが残っています（写真3）。長野市の夏まつりと同時開催になったため、期間が変更されていたようです。当初は祭事から俄物巡行を切り離して行う方向のようでしたが〔伊東 1962〕、柳澤家寄贈資料をみると、天王おろしや天王あげといった祭事も日時を変更して行われていたのではないかとみられます。従来は7月1日もしくは7日（旧暦の6月1日頃）から7月14日までの日程でしたが、この年は7月17日から7月26日までの日程となりました。

残された書付からは、祭礼の期間中にお先乗りを出す家で行うことの流れがわかります。まず、7月17日16時に記念撮影をし、17時の天王おろしに父と子で参加します。19日4時には自宅で弥栄神社の宮司からのお祓いを家族が受け、17時に披露宴が行われます。この時の披露宴は、権堂にあった山田楼という割烹料理屋で行われました。父親の名前で出された招待状（写真4）や、柳澤家や店宛の領収書が残ることから、披露宴はお先乗りを出す家が主催していたことがわかります。また、本席の後、手伝い関係者のためとして、2回目の披露宴が行われていたようです。非常に手厚い披露があったことがうかがえます。22日には民謡流し（市民による踊りの披露）を行っています。これは長野夏まつり一日目のイベントとみられます。他の資料を見ると、この日に俄物の制作も行っていたようです。23日には足揃え（人や屋台等、行列に参加する物を揃えること）が行われ、24日に本祭りとなります。この日にお先乗りや俄物・屋台の巡行があります。当日

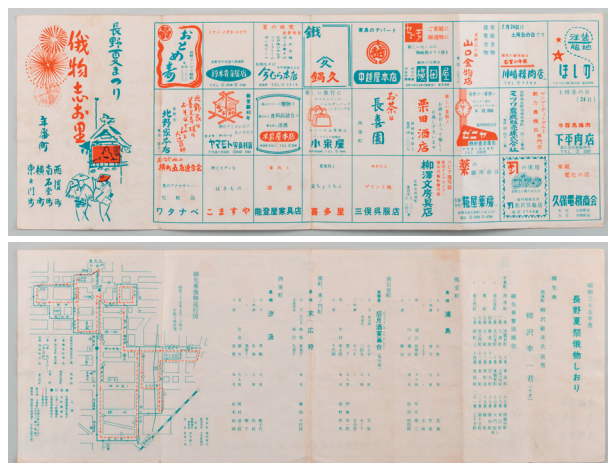


写真3 長野夏祭り俄物しおり

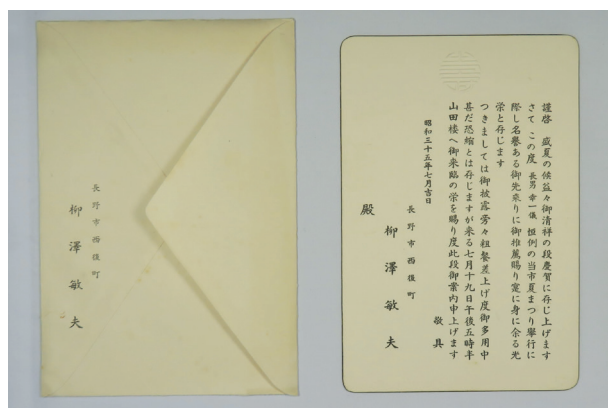


写真4 招待状

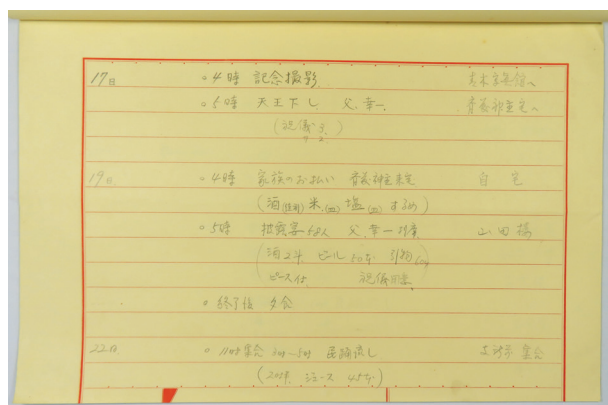


写真5 書付

は、朝7時20分に迎えが来たようです。午前中には、お先乗りの子どもに朝食を届けることや、各所に酒を届けること、お先乗りの通過、見送りの際に出す酒やつまみについて書かれています。お先乗りを出す家として多くの振る舞いをしていたことがうかがえます。また、この資料（写真5）は母や店の人が行う振る舞いについてのメモ書きとみられます。25日は11時から天王あげをしています。

26 日にも「天王上げ」とありますが、これは直会（宴会）のことと思われます。御祭礼町では祭礼が終わった後の直会のことを「天王上げ」と呼ぶことがあるためです。他の資料をみると、27 日にも町内の「天王上げ」（宴会）が行われています。

昭和 35 年には、長野夏祭りとして御祭礼を行うため、7 月 17 日に天王おろし、24 日に俄物・屋台行列、26 日に天王あげが行われていたのです。

費用

残された領収書などから、お先乗りにかかった費用がわかります。

お先乗りの衣装は、東之門町の呉服店で購入したようです。衣装を一からそろえたため、かなりの費用がかかっています。領収書をみると、狩衣、袴、烏帽子、中啓の 4 点で 2 万 9,900 円かかっていたことがわかります。他の領収書をみると、現在 120 円ほどの瓶ジュースが一本 10 円で買われているため、大まかではありますが、現在で言えば 30 万円以上の計算になります。現在は、お先乗りの経済的負担を軽減するために、衣装はほぼ毎年同じものが使われ、お先乗りの家が用意することはあまりありませんが、かつてはお先乗りの衣装はその家で用意するものでした。柳澤家でも、昭和 32 年に緑町がお先乗りを出した際に親戚が使った衣装を使うという案が出たものの、衣装は新調したのです。

衣装だけでなく、披露宴や会合の会場・飲食代、土産物の菓子代、来賓送迎のためのハイヤー代、両親や店の関係者の衣装代、店を改装するための費用、振る舞いのための費用など、非常に多くの費用がかかっています。

た。領収書から、かかった費用を計算すると、37 万 3,174 円にもなります。現在は、お先乗りを出す家の負担を軽減するためにこれらの費用は抑えることとなっていますが、当時はお先乗りを出すことが非常に名誉なことと考えられ、お先乗りを出す家は大きな負担をしても、もてなしを行っていました。領収書等からは、その様子がうかがい知れます。

披露宴には、多くの来賓がありました。その御祝儀袋なども残っています。善光寺の関係者、年番町の関係者だけでなく、当時の市長、商工会議所の役員も見え、長野市や長野商工会議所が関係した祭礼となっていることがうかがえます。

長野夏まつりの内容

—アルバム・8ミリフィルムの
映像・パンフレットから—

お先乗りを務めたことは、母親にとっても誇りで、大切な思い出となったのでしょう。お先乗りを務めた子の母親は、多くの写真を残していました。写真館で撮影した記念写真だけでなく、祭礼当日の様子を多くの写真におさめ、コメント付きのアルバムにまとめています（写真 6）。

また、当時の映像が 8 ミリフィルムで残されています。モノクロとカラーが混ざった映像で、音はありません。映像では、着付けや化粧をされている子どもの姿に始まり、祭礼当日のお先乗りが各所を馬で廻り、最後に家に帰るまでの様子が見られます。屋台を組み立てる様子（写真 7）など、貴重な当時の様子を映像でみることができます。

柳澤家に残されたパンフレットからも、長野夏まつりの流れがわかります。最後に、パンフレット類やアルバム、映像等から、長野夏まつりの構成を見てみましょう。「第三回



写真6 アルバム写真とコメント



写真7 屋台の組み立て（8mm フィルム映像より）

表3 昭和35年長野夏まつり次第

	日	時	内容	概要
前夜祭	7月21日	午後5時30分～	ふれ太鼓	前夜祭行事の一つ。まつりの開催を太鼓の音で触れまわる。
		午後6時30分～	前夜祭	新曲「長野夏まつり音頭」発表会・中学生ブラスバンド演奏会・コーラス・舞踊。
一日目	7月22日	午後3時～	開会式	城山公園にて行われる。
		午後3時30分～	民謡流し	城山公園、中央通り、長野駅前広場にて、地区（第一～四地区、吉田、芹田、大豆島、芋井、長沼等）や現在の第五地区にあたる町（南石堂町等）ごとに行列になって踊る。
		午後7時～	吹奏楽の夕	後町小学校にて警察や自衛隊の音楽隊が演奏する。
二日目	7月23日	午前11時～	広告まつり	市内企業や商店が広告を出して市内をまわり、競う。
		午後1時～	音楽隊行進	中学校の鼓笛隊行進や自衛隊音楽隊の吹奏ドリル行進、県警音楽隊の吹奏行進。
		午後8時～	煙火大会	堀花河畔にて、市内企業・商店の提供で打ち上げ。
三日目	7月24日	午前8時～	俄物	午前8時善光寺山門前集合・出発、午後10時長野郵便局付近解散。
		午後3時～	子供ミコシ	善光寺や長野駅周辺の町が、子供みこしをだす。長野駅前から中央通りを通り善光寺山門前まで。
		午後6時～	神楽	第一～五、古里、三輪、浅川、朝陽、芹田、安茂里の各地区が参加。長野駅前から中央通りを経て善光寺山門に至り、山門前にて獅子舞を奉納。
	7月19日～24日		全市連合祝売	旧市商店街（昭和29年の合併よりも前の長野市商店街）にて店飾コンクールと抽選券付大売出しを行う。

※イベントの名称等は、資料上の記載に従った。

長野夏まつり次第」を基にプログラムをまとめると、表3のようになります。

市民祭りとしての長野夏まつりを行うため、工夫をこらしたイベントが行われていました。御祭礼を行ってきた町に限らず、広く当時の長野市の地区が参加しているのが特徴といえます。例えば、民謡流しは、当時の長野市の各地区の団体が参加しています。御祭礼の参加町や旧長野町の地区（第一地区、第二地区、第三地区、第四地区、及び現在の第五地区にあたる各町）に加え、大正12（1923）年に合併した吉田、芹田、古牧、三輪や、昭和29（1954）年に長野市に合併した朝陽、柳原、古里、若槻、安茂里、大豆島、芋井、長沼が地区単位の団体として参加していました。人々が列をなして踊っている様子が、映像にも残っています（写真8）。子供ミコシや神楽にも、御祭礼に参加する町に限らず、多くの地区が参加しています。また、7月19～24日に旧市商店街（昭和29年の合併よりも前の長野市商店街）で大売出しを行うなど、長野商工会議所の主導で商店の活性化がはか



写真8 踊る市民（8mmフィルム映像より）

られていました。

プログラムの中で、御祭礼として従来から行われてきたのは、三日目（7月24日）の「俄物」のみです。天王おろしや天王あげは祭りのプログラムには入っていないため、これらは日程としては同時に行われながら、市民祭りとは別とされたとみることができます。自治体の補助金が入って行われたイベントでもあったため、神事を伴うとみなされたものは別扱いとなったのかもしれません。市民祭りとしての新しい姿がみえてきます。

おわりに

柳澤家寄贈資料からは、昭和35年の御祭礼の姿をみることができました。家が盛大にお先乗りを披露し、費用をかけて準備を行っていた様子が見てとれます。お先乗りの家の負担を軽減するようになる前の状況がわかります。その一方で、この時期の御祭礼は長野夏まつりとして行われるようになり、行政や商工会議所がかかわった新たな形となっていたことがうかがえました。変化の中にあった戦後の御祭礼の姿の一端が垣間見られる柳澤家寄贈資料は、貴重な資料群といえるでしょう。（樋口 明里）

参考文献

伊東淑太編 1962 『長野商工会議所六十年史』 長野商工会議所

博物館だより 第121号 発行日2022年3月31日

長野市立博物館

〒381-2212 長野市小島田町1414

TEL:026(284)9011

<http://www.city.nagano.nagano.jp/museum>

戸隠地質化石博物館

〒381-4104 長野市戸隠栃原3400

TEL:026(252)2228

鬼無里ふるさと資料館

〒381-4301 長野市鬼無里1659

TEL:026(256)3270

信州新町美術館・有島生馬記念館・信州新町化石博物館

〒381-2404 長野市信州新町上条88-3

TEL:026(262)3500